

経済・金融 フラッシュ

中国経済:12月製造業PMIが悪化 ～当面は景気指標の下ぶれに要注意

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

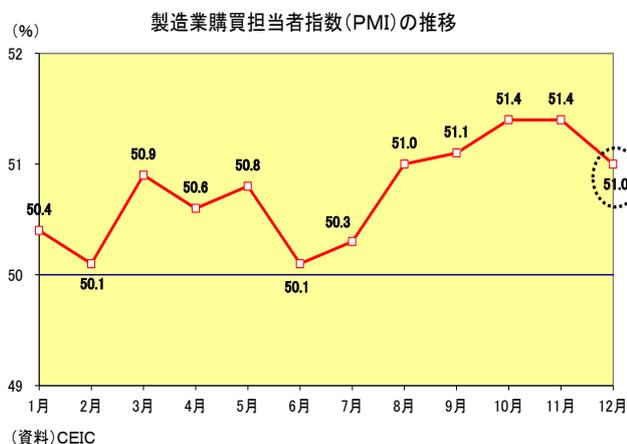
- 12月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）は51.0%と前月比0.4%ポイント低下し、2013年6月（50.1%）を底に改善してきた総合指数は半年ぶりに悪化に転じた。
- また、新規受注指数が3ヵ月連続で悪化、新規輸出受注指数は5ヵ月ぶりに50%を下回り、生産経営活動予想指数も50%を下回るなど、景気下ぶれ懸念が浮上してきた。
- 但し、今回の景気回復局面では在庫指数が50%を下回る低位で推移してきており、在庫が過度に積み上がったとは考えにくいことから、調整は短期間で終了するのではないかと見ている。

【 総合指数が半年ぶりに悪化 】

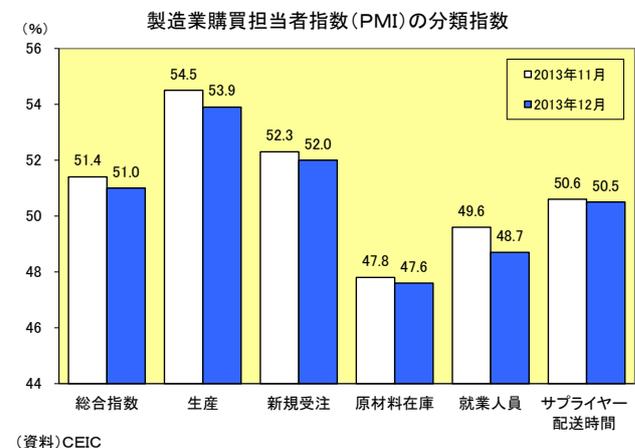
1月1日（水）、中国物流購買連合会と国家统计局サービス業調査センターは12月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）を発表した。それによると12月の総合指数は51.0%と前月と比べて0.4%ポイント低下した。拡張・収縮の分岐点となる50%は15ヵ月連続で上回ったものの、2013年6月（50.1%）を底に改善してきた総合指数は半年ぶりに悪化に転じた（図表-1）。

図表-2に示した分類指数を見ると、サプライヤー配送時間指数（逆指数）は前月比0.1%ポイント改善したものの、生産指数が前月比0.6%ポイント悪化、新規受注指数が同0.3%ポイント悪化、就業人員指数が同0.9%ポイント悪化、原材料在庫指数が同0.2%ポイント悪化している（図表-2）。

（図表-1）



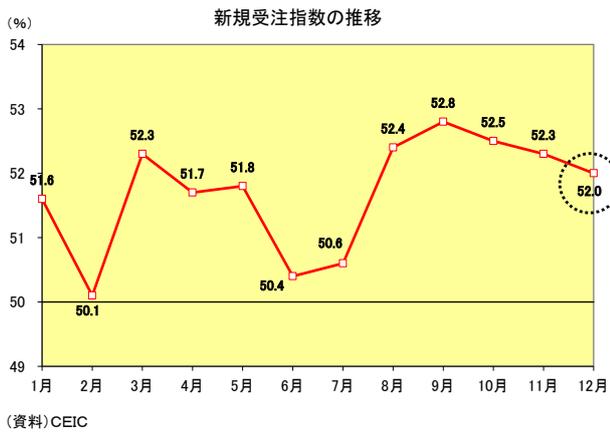
（図表-2）



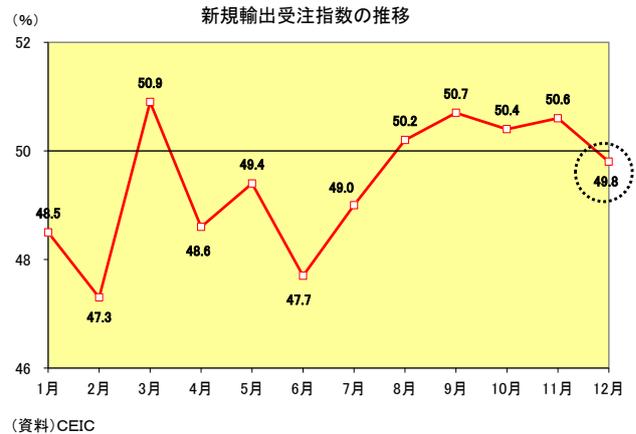
【 当面は景気指標の下ぶれに要注意 】

新規受注指数はこれで3ヵ月連続の悪化となったほか（図表-3）、輸出の先行指標として注目される新規輸出受注指数も、12月は49.8%と前月と比べて0.8%ポイントの大幅悪化となり、5ヵ月ぶりに拡張・収縮の分岐点となる50%を下回る結果となった（図表-4）。また、今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す生産経営活動予想指数も49.4%と50%を下回る水準に落ち込んでおり（図表-5）、当面は生産調整などで景気指標が下ぶれするリスクには要注意と思われる。

（図表-3）



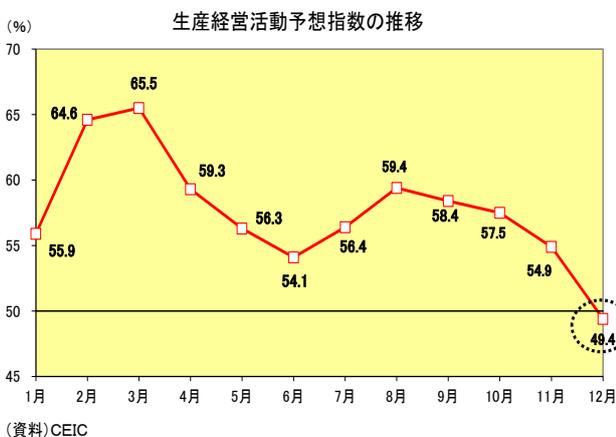
（図表-4）



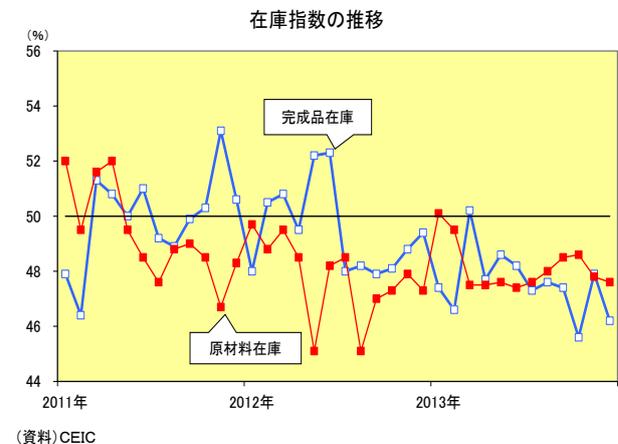
【 但し、調整は短期間 】

但し、今回の景気回復局面では在庫指数が50%を下回る低位で推移してきており、在庫が過度に積み上がったとは考えにくいことから、調整は短期間で終了するのではないかと見ている（図表-6）。

（図表-5）



（図表-6）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。